

## 弘前学院大学のカリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）

神を畏れ敬い人を愛する心「畏神愛人」をスクールモットーとして人間性豊かな人格の完成を目指し、文学・福祉・看護に関する高度な専門性を意欲的に追求し、地域や国際社会に貢献できる人材を育成するため、全学共通の礼拝、リトリート、キリスト教学、ヒロガク教養講話、基礎演習等を基盤に、各学部学科の専門教育科目を適切に配置し、各学部とも前期・後期には形成的評価、最終的には総括的評価を進め、それらの結果を学生個々に反映するとともに、それぞれの教育目標や学生のニーズに合わせた体系的カリキュラムを編成しています。

### ○文学部

文学部では、2018年度入学生から新カリキュラムに移行しました。言葉・文学・文化に強い関心を持ち、それらについて学ぶことによって論理的な思考力と高度な表現力を身に付けた人材を育成するという方針は、本学部が長く堅持してきたもので、これは新カリキュラムにおいても変わりません。

基礎的な科目、一般教育科目、外国語科目、専門教育科目を各学年にバランスよく配置し、順次性のある体系的カリキュラムを編成しています。教職・学芸員・社会教育主事・日本語教員などの資格取得に関する科目も幅広く設置しています。具体的な特徴は以下の通りです。

- 1 初年時には、大学教育における基本を学ぶための科目、たとえば「基礎演習」「情報の科学」「言語・文学・文化の基礎」や各種の概論などが多く配当されています。
- 2 2年次・3年次は、順次専門性を高めながら、次第に「演習」中心の勉強に移行して行きます。
- 3 卒業年次では相当程度に高度な「卒業論文」を書くレベルにまで至ります。
- 4 大学内のみならず、地域社会との様々な接点が設けられ、協調性・協働性を身につけていきます。
- 5 社会に即応できる実用性と、一人一人のニーズに合わせた勉強ができるような柔軟性に配慮した構成となっています。

6 専門性の高い勉強をしたからこそ基礎に戻って勉強したいと思う例、あるいは隣接諸科学の勉強の必要性を感じる例は多く、そのために上級学年では必修科目数を減らし、学生自らが考える勉学スケジュールに合わせられるよう、自由度の高い設定になっています。

7 自由を履き違えて安逸に流れることがないように、年間の最低修得単位数が設定されており、12単位を修得しない限り、上の年次には進めません。

8 実力を超えたオーバーワークにならないよう、1年間に修得できる単位は48単位を上限としています。

### ○社会福祉学部

1 入学者一人一人が自ら考え、自ら行動することを通じて様々な生活課題を有する人や様々な課題を抱える地域を理解し、社会福祉および関連領域の知識や技能を総合的に活用しつつ他者とも協力してその問題を解決していくための資質や能力を体得できるような教育課程を編成しています。

2 社会福祉実践コースでは、支援を必要とする人の生活やこころを深く理解すると共に、福祉政策や制度、インフォーマルケアを含む社会システムとの連携など、具体的支援のための方法を熟知した、福祉実践者である社会福祉士または精神保健福祉士を養成できるよう科目を設定しています。

3 人間科学コースでは、人間関係を築くためのコミュニケーション力や問題解決力、リサーチ力を身につけ、現代社会の課題である「共生社会」形成の担い手として、福祉領域に限らず広く社会で活躍・貢献できる人材を育成するための科目を設定しています。

4 社会福祉学における基本的知識、教養的知識に始まり、年次推移に従い社会福祉の専門的知識が醸成されるように順序立った科目を構成しています。

### ○看護学部

看護専門職としての知識と技能、および態度を修得できるように、教養科目、看護基礎科目、看護実践科目を3本柱とする体系的カリキュラム編成を行っています。さらに、専門職業人を養成する看護系大学として、社会が求める看護ニーズに対応できるよう、初年次よりのキャリ

ア教育を重視した科目の配置と教育内容の構成にて配置しています。講義、演習、実習は教養科目から漸次専門科目へと学生の準備状態を考慮した授業の進め方で配置しています。看護専門職としての観察力、総合的判断力、と科学的根拠のもとに看護を実践できる能力の育成を行っています。また、看護職の資質として豊かな感性と人間性、社会性を培うことができるように教養科目を編成しています。看護師のみならず、保健師国家試験受験科目、養護教諭（二種免許状）等の資格取得にも対応しています。なお、助産師をめざす学生にはその基礎となる科目が配置されています。

看護学科ディプロマ・ポリシーに基づき、以下のようなカリキュラムを編成します。

- 1 カリキュラムは、「教養科目」「看護基礎科目」「看護実践科目」から構成されます。
- 2 人の支援に関わる専門職をめざすことから教養教育を充実し、自発的な能力開発が継続できる素養や研究能力の基礎を涵養できるよう専門科目および学びの集大成として「卒業研究」を配置します。
- 3 看護師・保健師・養護教諭（二種免許状）など、自らの将来像に動機づけられた学習ができるよう、初年次からキャリア教育を開始した上で、上位学年にそれらの専門性を追求する科目を配置します。
- 4 1年次、2年次、3年次前期には、コミュニケーション・スキル、数量的スキル、情報リテラシー、論理的思考力、問題解決力などの汎用的技能を修得できる科目を配置する。看護実践科目においては、根拠に基づいた実践力育成を重視し、領域ごとに実践論を強化する科目構成とします。
- 5 3年次後期～4年次は、多様な健康レベルにある人を看護する実習を配置する。また、地域包括ケアシステムなどの新たな医療体制の仕組みに対応できるよう、生活支援活動を体験できる実習を配置します。
- 6 教育方法として、主体性とコミュニケーション能力を育成するために、地域活動および授業内での共同学習といった、多様で互恵的な学びの機会を設けます。
- 7 評価は、標準化された学習目標の到達度を適用し、専門職として必要な能力を基準に絶対評価とします。